１．プログラム名称
総合診療専門医養成プログラム「ちちぶ」
２．専攻医定員
原則１学年あたり２名とする。
３．プログラムの期間
（　３　）年間
４．概要
A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長 秩父保健医療圏は、周囲に秩父山地の秀峰をはじめとする山岳丘陵をめぐらせる盆地に開けた山紫水明の地である。面積は埼玉県土の約4分の1、(23．5%)を占めているが、人口は、102，714人(平成 29 年 1 月 1 日現在)で、県人口(7，343，733人)の約1．4%である。 当医療圏は、西南北の境は奥深い山間部で医療資源に乏しい地域であり、医師確保も大変な地域である。現在、当院を中心に、地域の病院や診療所の医師と連携協働し、地域医療を支えている。秩父保健医療圏の高齢化率はすでに32%と埼玉県下で一位であり慢性疾患を複数有する高齢者の医療ニーズは相当に高い。一方、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う医師が早急に必要であり、秩父地域で、行政のちちぶ医療協議会(1市4町)と秩父郡市医師会の協力をえて、当院が基幹病院として総合診療専門医養成プログラム『ちちぶ』を立ち上げた。
B. プログラムの理念、全体的な研修目標 本プログラムの理念は、総合診療専門医の質の向上を図り、以て、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的とし、地域で活躍する総合診療専門医が、誇りをもって診療等に従事できる専門医資格とする。特に、これから、総合診療専門医資格の取得を目指す若手医師にとって、夢と希望を与える制度となることを目指す。 全体的な研修目標は、患者、家族のマネジメントに必要な知識、技能、態度を身につけ、患者中心の医療を実現するために、多職種連携をはかり、地域包括ケアを基盤にした地域完結型の医療の統合的実践ができる総合診療専門医になることである。総合診療専門医に求められる能力は、医療・福祉・介護の連携を図りトータルに地域や患者、家族へのマネジメントができる能力である。このプログラムの研修によって、地域の診療所では家庭医として、地域で必要な基本的診療ができ、地域の病院では病院勤務の総合診療医としての役割を担うことができる足腰の強い総合診療専門医になることを目標としている。
C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会 （例）定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導等 病棟回診、外来振り返りケースカンファレンス、前院長作成 DVD（症例集）によるレクチャー、救急シミュレーションカンファレンス（第２および第４土曜日）、ケースカンファレンス（救急・入院・外来　第１および第３水曜日）、論文作成指導、経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導など、TV 会議システムについては、協議・検討中。

D. ローテーションのスケジュールと期間

（４年以上のプログラムの場合は、枠を増やして４年目以降のローテーションについても記載すること）

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	秩父市立病院及び酒井耳鼻咽喉科医院	秩父市立病院及び井上皮膚科医院	秩父市立病院及び眼科研修施設	秩父病院	秩父病院	秩父病院	秩父病院	秩父病院	秩父病院	皆野病院	皆野病院	皆野病院
	領域	総診Ⅱ及びその他	総診Ⅱ及びその他	総診Ⅱ及びその他	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	皆野病院	皆野病院	皆野病院	秩父市立病院	秩父市立病院	秩父市立病院	秩父市立病院	秩父市立病院	秩父市立病院	南須原医院	南須原医院	南須原医院
	領域	内科	内科	内科	小児科	小児科	小児科	救急	救急	救急	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	南須原医院	南須原医院	南須原医院	小鹿野中央病院	小鹿野中央病院	小鹿野中央病院	小鹿野中央病院	小鹿野中央病院	小鹿野中央病院	秩父市立病院	秩父市立病院及び岩田産婦人科医院	秩父市立病院
	領域	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅱ及びその他（外科・整形外科・精神科）	総診Ⅱ及びその他	総診Ⅱ

特記事項（　　）

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。